
中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2009年1月23日号

©2008年12月における中国の大豆市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2008年12月における大豆市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

※ この記事は、中国農業部の了解を得て、独立行政法人農畜産業振興機構が翻訳提供しているものです。内容の一部または全部を転載等する場合は、資料元が当機構によるものである旨を必ず明らかにして下さい。

1 2008年1～11月の大豆輸入は大幅増加、大豆油輸入はやや減少

2008年1～11月の中国の大豆輸入量は史上最高を更新し、前年同期比22.4%増の3,413.8万トンに達した。大豆油輸入量は堂4.2%減の245.1万トンとなった。同年11月の大豆輸入量は331.6万トンで、前月比55.9%増・前年同月比1.1%減となった。

2 国内価格は引き続き下落するも、12月後半には反発

2008年12月の黒龍江地区の搾油用大豆買付価格は1トン当たり3,338円で、前月比8.1%安・前年同月比22.1%安となった。山東地区の国産大豆の買付価格は同3,410円で、前月比9.6%安・前年同月比24.6%安となった。四級大豆油の工場出荷価格は同6,820円で、前月比2.6%安・前年同月比34.7%安となった。中等大豆粕の工場出荷価格は同3,054円で、前月比9.4%安・前年同月比18.2%安となった。

12月後半になると、大豆及び大豆製品の国際価格は反発し始め、月末の黒龍江地区の搾油用大豆買付価格は同月16日に比べ3.8%高となる1トン当たり3,384元となった。山東地区の四級大豆油及び中等大豆粕の工場出荷価格は、それぞれ同6,900元及び3,113円で、同月8日に比べ4.5%高及び5.2%高となった。

3 国際大豆価格は大幅に反発

大豆及び大豆製品の国際価格は2008年12月中旬から大幅に反発し始め、12月末の米国シカゴ取引所（C B O T）における大豆平均価格は同月初に比べ20.9%高の1トン当たり351.2ドルとなった。また、大豆粕は同25.3%高の326.9ドル、大豆油は同12.8%高の719.6ドルとなった。しかし、月平均では、大豆の国際価格は下落となった。12月のシカゴ取引所における大豆、大豆油及び大豆粕の平均価格は、それぞれ1トン当たり322ドル、693.8ドル及び288.4ドルで、前月比では3.6%安、6.9%安及び1.7%安、前年同月比では23.8%安、33.8%安及び18.8%安となった。

4 国内価格は国際価格を上回る

2008年12月の米国メキシコ湾における大豆の離岸価格（本船渡し価格＝F O B価格）は1トン当たり354.9ドルで、これを同2,428元と換算すると、山東地区の国産大豆仕入価格に比べ同982元安かった。また、山東地区の輸入大豆の通関渡し価格（Duty Paid：C I F＋関税等）は同3,312元で、当地の国産大豆仕入価格に比べ同98元安かった。

5 世界の大豆生産量は史上最高を更新

国連食糧農業機関（F A O）によると、2008/09年度の世界の大豆生産量は、前年度比1,750万トン増（7.9%増）の2.38億トンと見積もられ、史上最高を更新するとみられている。うち米国の大豆生産量は、前年度比11%増と予測されている。